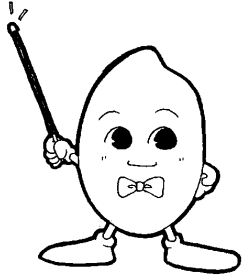


# 焦り作業は事故のもと！ 本田準備は余裕をもって



## これからのPOINT！



### ①苗ヤケ注意！

体感温度が低くても、日照があるだけでハウス内の温度が急激に上昇しますので十分注意しましょう。こまめな管理で苗ヤケ、徒長なしの健苗に仕上げましょう。

### ②水管理をしっかり！

葉先に水滴が一斉につくのは、床土に水が十分にあり、根も健全な証拠です。水滴が少ない場合や水滴がつかない場合は、「床土の水分不足」か「根の障害」が考えられます。

### ③田植 5～7 日前から外気に慣らすため夜間も換気を行いましょう。

☆詳しくは営農情報No. 2 育苗段階別管理のポイントをご参照ください。

### ④徒長、老化苗に注意！

育苗期の高温が予測されます。苗の生育も早くなりますので、注意が必要です。徒長、老化苗は活着が劣るため、べんとう肥等追肥資材を活用しましょう。

## ☆おすすめ！育苗追肥資材☆

資材名	規格	使用方法	使用時期	1箱あたりの散布量		100箱あたりの散布量		希釈
				液量	水量	液量	水量	
ケルパック 66 ミニ	120ml	灌注	播種時又は緑化期	0.2ml	200ml	20ml	20ℓ	1,000 倍
アミグロー	1ℓ	灌注	緑化期～硬化期	1ml	500ml	100ml	50ℓ	500 倍
		プール育苗	入水時	1ℓで約 100 枚分				
くみあい液肥 2号	6 kg	灌注	移植 4 日前～前日	10～15ml	500～750ml	1ℓ～1.5ℓ	50～75 ℓ	50 倍
べんとう肥	5 kg	粒散布		15～20 g	—	1.5 kg～2 kg	—	—

※くみあい液肥 2号、べんとう肥散布後は葉ヤケ防止のため速やかに散水しましょう。

## 本田作業管理のPOINT！

### ①天気のいい日に！

本田作業は可能な限り田の乾きを待って天候の安定した日に作業を開始できるように計画しましょう。(過湿状態で耕耘した場合は、稲わらの腐熟が進まず土壌が酸素不足となり稲の生育に影響を及ぼすことが懸念されます。)

### ②浅植えで活着、分けつの促進！

植えつけ深さは2～3cm程度の浅植えとしましょう。地面の深さが1cm深くなるごとに地温は約1度低くなります。活着促進のため、深植えにならないようにしましょう。

### ③保温的水管理の徹底！

活着するまでは低温や強風対策のため深水とし、保温的水管理を徹底しましょう。

## 初期生育確保のポイント！

### ①適期移植

気温が低い日や風の強い日の移植は初期生育の停滞が心配されます。苗の活着限界温度は平均気温3℃以上、不良苗だと14℃～15℃以上が必要ですので温かく天候が安定した日に作業を行いましょう。

### ②適正な栽植密度

コシヒカリ 50～60 株/坪、早生品種で 60～70 株/坪を目安として過繁茂や過剰着粒による品質低下を避けましょう。

苗の活着温度	
活着限界温度	最適温度
12℃～13℃	25℃以上

※活着すると稲は分けつを始めます。分けつを多くするには昼夜の水温の温度差が必要なので適切な水管理を心掛けましょう。

## ☆漏生籾対策をしっかりと☆

昨年の台風 15 号の強風によって脱粒被害が多く発生しています。脱粒（漏生籾）から発芽するイネについては異種混入による問題が懸念されます。漏生籾対策をしっかりと行い、被害を防ぎましょう。

〈具体的対策〉

①できる限り昨年の作付と同一品種の作付をする。

②耕起・代かきは丁寧に！

代かきによる漏生籾（イネ幼芽）の損傷・埋没で生存率の低下が期待できます。

※浅水での2回代かきで効果大

③初期剤＋初中期一発の体系処理で確実に！

**漏生籾対策におすすめの体系**

**初期剤「メテオ」＋初中期一発剤「ボレーガード」**

## 地域への配慮忘れていませんか？

近年、農業機械の一般道走行中の事故が相次いでいます。管内でも後ろから迫ってきたトラクターを避けようとした際、泥に滑ってケガをした事案が発生しました。道路に泥を落とさないのは農業者の最低限のマナーです。地域の道路、みんなで気持ち良く使いましょう。

**道路に上がる前に泥を落とす！落ちた泥は片づける！**

**譲り合いの気持ちを持ちましょう！**

**今一度、マナーと道路交通法を守りましょう！**